

多い精神的不安

四川大地震

な不安を訴える被災者も目立ち、精神科医によるカウンセリングを行うと同時に、心理カウンセラーの養成研修準備を進めている。

AMDAは計21人の医師、看護師らを派遣した。5月24日から29日まで現地支援に入った岡山大医学部の汪達紘医師らのグループは成都の「四川省中薬科学院付属病院」で活動。外科手術8件を含む19件の治療を受け持ち、病院の外科治療の2割をカバーしたという。また、精神的な不安を訴える被災者も多いことから、AMDA台湾の精神科医、王智仁医師によるカウンセリングを実施。心理療法など計95件のカウンセリングを行った。

一方、四川省徳陽市では市の体育館が避難

所となっており、AMDAの外科医、看護師ら4人が現地医師と協力して診療を続けている。さらに、5月17日には成都から約4時間の山岳地帯にある村に仮設診療所として3張りのテントを設置、負傷者10人を診察した。

同19、22日には、成都の華西病院でAMDAの医師2人が現地医師と協力し、医療支援を行った。AMDA側は24人を診察。けがは主に足に集中しており、骨折や傷が化のうした患者が多かったという。9歳男児の手指、30代男性の足首の切断手術も行った。

現地からの報告では、余震による家屋の倒壊を警戒して路上で寝る人が多く、テントや毛布、寝袋が必要という。

中国・四川大地震で緊急医療チームを派遣している国際医療援助団体「AMDA」（岡山市楡津）が、現地でのこれまでの診療活動を報告した。負傷者の

診療の一方で、精神的